

日本語版への序文

本書は一九二〇年代後半から一九四〇年代にかけての中国共産党内における権力闘争の過程を分析したものである。この時期は短い期間ではあるが重要な事件が目白押しであった。たとえば、ソヴェエト地区の樹立（一九三一年）、長征（一九三四～一九三五年）、西安事件（一九三六年）、第二次世界大戦、中華人民共和国の樹立など。一九二〇年代、中国共産党は数百名の活動家から成る小さな取るに足らない集団だったが、一九四九年には五億以上の人口を抱える中華人民共和国を建国するまでに発展した。この二〇年間は、中国共産党にとってすさまじい権力闘争の時代だった。一九二〇年代には、陳独秀、瞿秋白および向忠発が党の指導者だったが、一九四〇年代になると毛沢東が権力を握り、一九七六年に死去するまで党を率いた。他方、周恩来は一九二〇年代から一九七〇年代まで一貫して中国共産党政治局を務めた。本書では毛沢東の台頭と政治局における周恩來の役割を中心に論じている。

本書では主に次のような重要な関係について検討している。

- 1 毛沢東、周恩来および他の中国共産党指導者の関係

- 2 中国共産党と蒋介石の国民党との関係
- 3 中国共産党と共産主義インターナショナルとの関係
- 4 一九四九年以前の歴史と一九四九年以降の政治との関係
- 5 実際の歴史とこれまでの研究史の関係
- 6 中国における研究史と西側における研究史の関係

西側研究者が一九五〇年代に中国共産党史の研究を始めたとき、その研究には深刻な二つの問題が存在していた。それは、信頼のおける資料がほとんどなかったということ、および冷戦期政治動向が学問研究に大きな影響を与えていたということである。ベトナム戦争と文化大革命終結後、研究状況は大いに改善され、特に一九八〇年代には数多くの新しい伝記、回想録、学術論文、政府文書が中国で続々と刊行された。このため、中国共産党史に関する初期の研究に見られた多くの過ちを正すことができた。

本書は非常に国際的な研究書である。私は中国、ドイツ、イギリス、スウェーデンおよびアメリカで資料調査を行った。本書の最終草稿はスウェーデンのランド大学東・東南アジア研究センターで書き上げた。実に多くの先生、同僚、友人から助言を受けた。コペンハーゲン在住のインガリル・プロムクビストおよびジェラルド・ジャクソン、ベルリン在住のサビン・キャンペン、アーリング・フォン・メンドーおよびペトラ・シリーベ、ランド在住のマイケル・シヨンホルス、ボストン在住のスチュアー

ト・シユラム、ハイデルブルグ在住のナタシャ・ヴィッティングホフ、ルドルフ・ワグナーの各氏に感謝の意を表したい。大阪外国語大学の杉田米行先生という素晴らしい翻訳者および三和書籍の高橋社長という的確な編集者にめぐり合えたことは何よりも幸いである。

本書が日本の読者に中国史および中国の研究史と西側の研究史に関する詳細で新しい見解を提供できることを期待している。日本の読者から批評や提案をいただいてさらに研究を進めたいと望んでいる。

ハイデルブルグ

二〇〇三年十月

トーマス・キャンペン

【目次】

日本語版への序文 /

はじめに /

第一章 中国共産党の指導権と

二八人のボリシェヴィキ派の中国帰還（一九三〇年） / 15

一九三〇年当時の中国共産党の指導権 / 16

二八人のボリシェヴィキ派と中国への帰還 / 20

二八人のボリシェヴィキ派とは誰か？ / 23

孫逸仙大学における二八人のボリシェヴィキ派 / 43

二八人のボリシェヴィキ派の帰還 / 45

李立三との最初の闘争 / 50

周恩来、瞿秋白と三中全会 / 53

小括 / 57

第二章 新しい党指導部の展開（一九三二年） / 63

コミンテルン代表の到着・上海におけるパウエル・ミフ / 66

四中全会と一九三二年一月における党指導部の変化 / 69

逮捕、処刑、追放、およびその影響 / 73

王明と臨時新党のリーダーシップの確立 / 75

小括 / 78

日本語版への序文

第三章 中国共産党指導者の江西への移転と

ソヴィエト地区における権力闘争（一九三二～一九三四年）

87

項英と江西における中央局の設立 86

任弼時と王稼祥のソヴィエト地区への到着 89

中華ソヴィエトの第一回大会 92

周恩来の到来と毛沢東の降格 96

臨時中国共産党指導部の到着と「羅明路線」に対する反対運動 101

五中全会と江西喪失 103

小括 106

第四章 長征時における中国共産党指導部の内部闘争

109

長征の始まりと一九三四年二月の会議 111

一九三五年一月の遵義会議 115

データ 118

参加者 120

議事進行 123

結果 124

遵義会議後の党および軍指導部の変化 126

小括 127

第五章 中国共産党とコミンテルンとの関係

および第二次国共合作の形成（一九三五～一九三八年）

131

中国共産党とコミンテルンの関係の断絶と回復 134

コミンテルンの新政策と中国への伝達 140

第二次国共合作の準備 143

西安事件 147

王明の延安到着および一二月会議	150
三月会議と任弼時のモスクワ訪問	156
コミンテルンと六中全会	157
小括	161

第六章 延安整風運動と

新しい中国共産党指導部の台頭（一九四〇～一九四五年）

抗日戦争初期の中国共産党指導部	167
毛沢東と中国共産党史に関する論争	168
第六期中国共産党全国代表大会以来の資料収集	172
整風運動と毛沢東の指導権確立への道	174
「毛沢東思想」の宣言	181
中国共産党史に関する第二の論争	182

第七回中央委員会全体会議と『党史に関する決議』	183
『若十の歴史問題に関する決議』	184
第七期中国共産党全国代表大会と新しい中国共産党指導部の選出	190
小括	192

結論

訳者あとがき	211
参考文献	215

著者紹介

トーマス・キャンペン Thomas Kampen

ベルリン自由大学博士課程修了 (Ph.D.)。
ベルリン、ロンドン、北京で中国史と中国政治を勉強。
現在ハイデルブルグ大学で中国政治を教えている。

主要著書

The Leadership of the Chinese Communist Party and the Rise of Mao Zedong (1998) ドイツ語
Mao Zedong, Zhou Enlai and the Evolution of the Chinese Communist Leadership
(Denmark: NIAS Publishing, 2000)
*Revolutionary railway plans: The uprising in the Chinese province of Sichuan and
the end of the Chinese empire in 1911* (2002) ドイツ語
*Chinese Communists and the West: A Concise Biographical Handbook of Chinese
Communism and Western Supporters* (Denmark: NIAS Publishing, 2003)

翻訳者紹介

杉田米行 (すぎた よねゆき)

1962年、大阪生まれ。
現職：大阪外国語大学アメリカ講座助教授。

主要著書

Yoneyuki Sugita, *Pitfall or Panacea: The Irony of US Power in Occupied Japan: 1945–1952*
(New York: Routledge, forthcoming)
Richard Jensen, Jon Davidann, and Yoneyuki Sugita eds., *Trans-Pacific Relations: America, Europe,
and Asia in the Twentieth Century*. (New York: Praeger, 2003)
『ヘゲモニーの逆説：アジア太平洋戦争と米国の東アジア政策、1941年–1952年』
(世界思想社、1999)

毛沢東と周恩来

中国共産党をめぐる権力闘争【1930年～1945年】

2004年 2月 15日 第1版第1刷発行

著者 トーマス・キャンペン
翻訳者 杉田米行
発行者 高橋考
発行所 三和書籍
〒112-0013 東京都文京区音羽2-2-2
TEL 03-5395-4630 FAX 03-5395-4632
sanwa@sanwa-co.com
http://www.sanwa-co.com/
印刷／製本 株式会社廣済堂

© Yoneyuki Sugita 2004

ISBN4-916037-54-5 C3031

本書の一部または全部を、無断で複写・転載することを禁じます。

乱丁・落丁本はお取り替えいたします。価格はカバーに表示してあります。